

科目名	哲学概論	科目責任者	石神 豊
課題と試験担当教員	石神 豊		
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CTETC220		

■ 科目概要

哲学の学習は、やはりこれまで人類の歩んだ思索を振り返るところから始まる。しかしそれはたんに過去を回顧することではなく、現代と将来のために過去の遺産の再評価をするということである。私たちにとって思索の焦点は「人間」にある。歴史的展開に含まれている人間らしさを求めて哲学を学ぶときに、人類の思索が壮大な一つの目的的行為であること、しかもそれは、たんに観念ではなく、現実世界のあり方と連動しているということを知ることができる。

テキストは古代から現代までの叙述がなされている。そのうち近代の部分が大部分をしめるが、それは近代こそ私たちの現代にとって重要な位置を占めているからである。

■ 到達目標

哲学の歴史的展開についての基礎知識をえること。また、それぞれの局面においていかなる問題が提起され、どのように把握されることで、何が解決され、何が問題として残ったのか。こうした生きた哲学＝歴史的な観点を身につけることが目標となる。

■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
「はじめに」および序章	「はじめに」では、哲学が常識とみられるものへの反省・批判によってなりたつということを知る。序章では哲学の対象、方法、性格について学習する。
第1章 1 (1)～(2)	古代ギリシャにおける自然哲学としてイオニア(小アジア西岸)自然哲学およびピタゴラスの哲学思想を学ぶ。神話的な思考から合理的思考への移行に注目する。
第1章 1 (3)～(4)	前回は引き続き、古代ギリシャの自然哲学をみる。今回は純粋思惟を説くパルメニデスおよび古代原子論について学ぶ。現代の原子論との比較もしてみたい。
第1章 2	今回と次回はソクラテスの哲学について学ぶ。ソフィストとの比較でソクラテスの立場を考察し、哲学がいわゆる実用的な知であるより、魂の善さにかかわる知(真の知)であることを知る必要がある。
第1章 2	前回は引き続きソクラテスの哲学を学ぶが、いわゆる「無知の知(自覚)」といわれるものについて。また、対話術およびイロニーについて。さらに、ソクラテスの裁判と死刑判決について。
第1章 3	プラトンの哲学について、いわゆる哲人王の思想、そしてイデア論といわれる思想について考察する。とくにイデア論のもっている認識論的観点と存在論的観点について注意したい。
第1章 まとめ	第1章全体を振り返り、古代ギリシャ思想の特徴をまとめてみる。また、章末の参考文献の紹介をみて、関心をもったものに当たっていく。
第2章 1	第2章は近代自然科学の成立について考察する章である。自然観の成立と密接していることに注目。はじめに、アリストテレスの自然観、運動論をみることで、近代的なそれとの対比をする。
第2章 2	近代科学の成立に最大の影響を与えた人物にガリレオがいる。ガリレオの自然観を見るが、まずは彼の自然研究の方法に着目する。つぎに彼の機械論的自然観の特徴について。
第2章 2	機械論的自然観とならんで、ガリレオの自然観を構成する「理想化された自然」という考えについてみてみる。そして、ガリレオ的な自然観と自然科学の性格を考察する。
第2章 まとめ	第2章の「近代自然科学の成立」全体を振り返り、その歴史と特徴についてまとめる。そして、現代から見て、こうした方法と思想がどうであるか、参考文献にもあたり批判的に考察してみる。
第3章 1	今回から5回にわたってデカルト哲学についてみていく。今回はデカルト哲学の課題と方法について概観する。

学習範囲 該当する章など	学習内容
第3章 2	デカルト哲学の方法的懐疑について、その特徴と懐疑の進めかたを考察する。この箇所は彼の『方法序説』を読みつつ学習していくようにしたい。
第3章 2	哲学の第一原理といわれる「我思う、ゆに我在り」の発見とその意義について学ぶ。このデカルトの第一原理へのガッサンディの批判について。
第3章 3	デカルト哲学の(精神と物質の)二元論に含まれる諸問題について。とくに心身問題についてデカルトの理解と後継者たちの見解について。さらに、残された問題として、人間関係、社会をどう見るかという問題がある。
第3章 まとめ	第3章全体を振り返り、デカルト哲学についてまとめる。デカルト哲学の考察には『方法序説』や『省察』を読むことが求められる。これらにあたり理解を深める学習をする。
第4章 1	近代自然法思想について、ホブズとロックについてみる。近代自然法思想の二つの特徴について。ホブズとロックの異なる点について。
第4章 2	ヒュームの思想。(1)道徳性と人間の自然本性について、(2)社会の形成と正義の方の成立について。
第4章 3	ルソーの社会思想。(1)「自然に帰れ」とのルソーの言葉についての考察。(2)文明社会の批判の内容。
第4章 3	ルソーの社会思想。(3)社会契約論について。ルソーの社会契約論の二つの特徴と、社会契約の内容について。
第4章 まとめ	近代的社会観の成立について第4章の全体をまとめてみる。とくに人民主権、民主主義思想の成立に注目する。章末の参考文献にあたっていくのがよい。
第5章 1	第5章は、テキストの中核をなすカント哲学についての考察である。 カントがなぜ現代でも広く学ばれるのか。そこにある人間学について。 カントの掲げた3つの問いのうち、第1の問いである「人間はなにを知りうるか」について考察する。今回はそのうちの(1)人間理性のアンチノミーについて。
第5章 1	(2)「『純粋理性批判』という書物」より、「アプリアリな総合的認識」「コペルニクス的転回」「思考法の革命」について学ぶ。
第5章 1	前回に続いて、「感性の形式としての空間・時間」「カテゴリーの演繹」を学ぶ。そして(3)「現象と物自体」の項目を学習してひとまずカントの理論哲学を終了する。
第5章 2	カントの第2の問いである「人間は何をなすべきか」について考察する。これはいわゆる倫理学に相当する個所である。まずは、倫理を成立させる人間の「意志の自由」についてみる
第5章 2	つづいて道徳法則および意志の自律について考察する。カントの道徳法則の思想には彼の人間学が反映している。 さらにカント倫理学の問題点とされるものについて論究する
第5章 まとめ	第5章全体を再読し、カントの理論的、実践的哲学についてまとめる。この際、不明な点やあいまいな点についてはチェックし、他の文献にあたり解決していきたい
第6章 1	現代哲学における人間観として、ハイデッガーの哲学を考察する。(1)「ヨーロッパにおける20世紀初頭の知的・社会的状況」、(2)「『存在と時間』という書物」の「存在とは何か」について学ぶ。
第6章 1 第6章 まとめ	引き続き「道具連関と世界」「世界企投」「被投性」「本来的実存と非本来的実存」「時間性」について。さらにハイデッガーの近代技術文明批判について学ぶ。 第6章の2は環境倫理学についての記述となっている。これはハイデッガーの近代技術文明批判とつながっている。第6章全体をまとめることで、現代の課題と今後の哲学が向かうべき方向性が理解される。

■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	テキスト内容の学習の成果をみる。基本的な知識を50%、内容理解を50%とする。
レポート	課題把握、教材理解、論理構成、読みやすい文字(文章)をそれぞれ等分に評価して、総合評価(ABCD、Dは再提出)とする。

■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

■ 教科書

書名：哲学と人間観
著者名：犬竹正幸
出版社名：梓出版社
出版年：
版：
刷：
ISBN：

■ 参考書

テキストの各章末に掲載

■ 履修上のアドバイス

哲学概論にあつては、基本的な原典を読むことが学習を実り多いものにします。プラトン『ソクラテスの弁明』『クリトン』、ガリレオ『天文対話』、デカルト『方法序説』『省察』など。またカントに関しては第5章末の参考文献にある紹介を参照してください。

■ 自習時間

レポート1課題あたりの作成に20時間程度、科目試験のために合計40時間程度の学習。

■ 担当者のプロフィール

静岡県浜松市出身。浜松北高校、名古屋大学、東北大学大学院に学ぶ。専攻は近代西洋哲学および西田哲学。西田幾多郎研究で博士号取得(東北大学)。現在、本学文学部教授。